

地方創生 やらまいか通信 vol.1

発行日：平成 27 年 5 月 15 日

「創生会議」始動。総合戦略策定の議論がスタート



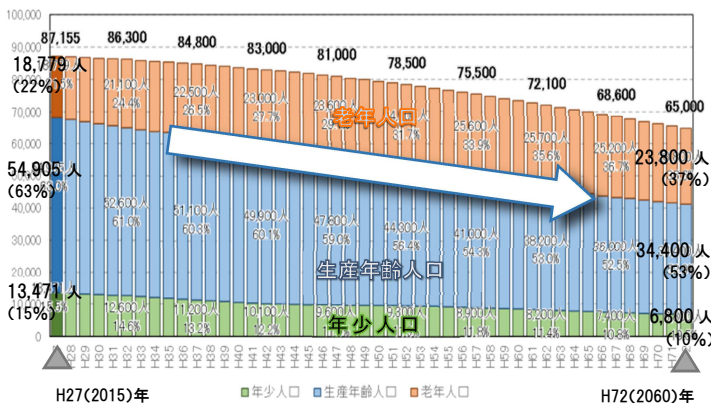
袋井市の将来人口展望について

■総人口は「横ばいから、徐々に減少傾向」に転じる。

現在の人口動向から将来人口を推計すると **2060年**の本市の人口は **65,000人**に…

■年齢3区分別では「年少人口」「生産年齢人口」は、ともに減少

■「老年人口」は、増加し **45年後に高齢化率は36.6%**に…



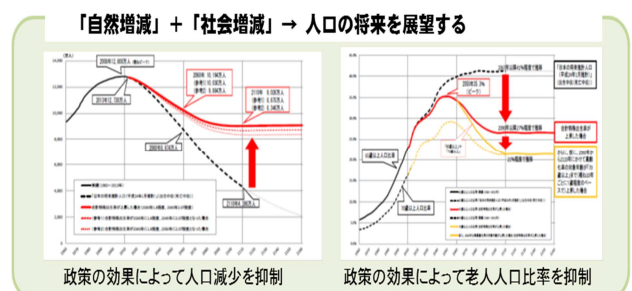
創生会議では、総合戦略の策定のため子育て支援や高齢者施策、産業の振興、防災対策や新しい時代のまちづくりなど、出生率の上昇や社会減の抑制に寄与する政策の効果や影響の度合いを分析し、「自然増減」や「社会増減」など将来人口に及ぼす影響をシミュレートしながら、今後取り組むべき施策を議論します。

■人口減少の歯止めをかける戦略を…

(人口流出防止策、出生率向上策)

■人口減少に即した戦略を…

(効果的・効率的なまちづくりなど)



■人口減少抑制と地域経済の活性化に向けた3つプロジェクト（案）～議論の叩き台～

■ 三世代 Happyプロジェクト 若者や子育て世代、元気な高齢者が輝くまちづくり

○子育て支援アプリ（連携版）開発・普及プロジェクト 先行費 8,000千円

コンシェルジュアプリの開発と普及によるパーソナライズな情報提供の実現
 1) 1人1人の生活や行動履歴に基づいた生活サポートシステムの構築
 2) 子育て支援アプリの活用による「子育て支援」の提供（子育て経験者も参加型）
 「母子手帳」取得時に活用アプリのダウンロード
 (1) 妊婦から子育てまでの全過程をサポートする自動生成の母子手帳
 (2) 妊婦から子育てまでの全過程をサポートする自動生成の母子手帳
 (3) 妊婦から子育てまでの全過程をサポートする自動生成の母子手帳

○ICTを活用した「新しい学び」の開発プロジェクト 先行費 6,000千円

デジタル教材など活用した学習スタイルの構築
 電子書籍教材等の活用による学習意欲の向上
 ○対象 市内小中学校
 ○内容
 (1) ICT教材による授業づくり支援
 (2) オンライン教材による授業づくり支援
 (3) オンライン教材による授業づくり支援

今後の展開

子育て支援アプリの活用による「子育て支援」の提供
 ICT教材による授業づくり支援
 オンライン教材による授業づくり支援

誰もが安心して子どもを産み育てられる環境づくり

○若い世代の思いの共有
 ○子育て支援アプリ「育ちの森」の充実
 ○子育て支援アプリ「育ちの森」の充実
 ○子育て支援アプリ「育ちの森」の充実

子どもの未来を拓く育育の推進 ～「21世紀型能力」の育成～

○新しい学びの開発
 ○ICT教材による授業づくり支援
 ○オンライン教材による授業づくり支援

健康づくりの新たな挑戦

○健康増進プログラムの科学的分析（健康増進） 先行費 3,000千円
 ○健康増進プロジェクト（中小企業向け）
 ○健康増進プロジェクト（中小企業向け）

- 子育て支援**
- ・誰でも安心して子どもを産み育てられる環境づくり
 - ・子育て支援エリア「育ちの森」の充実
 - ・コンシェルジュアプリの開発
 - ・若い世代の出会いの機会創出 etc

- 健康づくり**
- ・総合健康センターを核とした「(仮称)健康の丘構想」
 - ・検診データや生活記録などの蓄積と解析
 - ・中小企業と連携した健康管理支援システムの構築
 - ・プラチナ世代の新しい働き方の提案 etc

■ 次代を見据えた「しごと」と「産業」の構造転換プロジェクト

農業分野 ～世界で載える農産品とビジネスモデルの構築～ (アジアを中心とした展開)

クラウンメロン 海外輸出戦略 先行費 8,000千円

若手生産者の海外輸出戦略を強化し、世界で載える農産品とビジネスモデルの構築
 ○ターゲット国(アジア)
 (1) 輸出戦略の立案・実行(流通戦略・プロモーション戦略等)
 (2) オンラインマーケティング戦略の構築
 (3) 世界で載える生産・消費者の育成(OGAP取得支援)

お茶 ～リーフオンリーからの脱却～
 ○リーフオンリーからの脱却
 ○リーフオンリーからの脱却
 ○リーフオンリーからの脱却

観光分野 ～地域資源の磨き上げとプロモーション～

シティプロモーション戦略 先行費 10,000千円

人や企業等の生活や活動の場として選ばれる地域の創造と発信
 (1) 地域の魅力を発信するプロモーション戦略の構築
 (2) 地域の魅力を発信するプロモーション戦略の構築
 (3) 地域の魅力を発信するプロモーション戦略の構築

新産業分野 ～次代を拓く「新しいしごと」と「産業」の育成～

○環境工科大学と連携した新産業の育成
 ○環境工科大学と連携した新産業の育成
 ○環境工科大学と連携した新産業の育成

- 農業分野**
- ・やる気のある若手生産者らの海外輸出戦略の支援
 - ・世界で載える農産品とビジネスモデルの構築
 - (例) **お茶** ロシアへの輸出、**メロン** インドネシアへの輸出 etc

- 観光分野**
- ・シティプロモーション戦略
 - ・地域資源の磨き上げ
 - 観光地の多言語化、免税店の開設、エコパの活用、観光タクシーetc

- 新産業分野**
- ・次世代自動車などの共同研究(静岡理工科大学との連携)
 - ・商工会議所・JAとの連携強化…起業支援など
 - ・袋井商業高等学校の5年制化

■ 未来を支える強靱なまちづくりプロジェクト

内陸フロンティアを拓く取組（地震津波対策）

袋井駅南地区開発（新たな時代のまちづくり）

沿岸部の津波対策「防潮堤」や「命山」の整備

産業の受け皿創出「工業用地」の造成など

地域間連携の強化（教育・観光・防災など）

2019年ラグビーW杯開催都市との交流
 3.11東日本大震災復興支援
袋井（防災）× 釜石（ラグビー）

歩いて楽しいまちづくり

道の駅の活性化「多摩川駅」
 道の駅の活性化「多摩川駅」
 道の駅の活性化「多摩川駅」

自転車を活かしたまちづくり

コミュニティサイクルの活用
 コミュニティサイクルの活用
 コミュニティサイクルの活用

移れるふるさとの川づくり

川辺の自然体験の推進
 川辺の自然体験の推進
 川辺の自然体験の推進

お買いまわ推進プロジェクト

移動商店街「買い物支援」公園マルシェ
 移動商店街「買い物支援」公園マルシェ
 移動商店街「買い物支援」公園マルシェ

- 内陸フロンティア（地震津波対策）**
- ・沿岸部の津波対策「防潮堤」や「命山」
 - ・産業の受け皿創出「工業用地」
 - ・地域間連携の強化「袋井（防災）× 釜石（ラグビー）」

- 新しいまちづくり「袋井駅南地区」**
- ・潤いと賑わいのある健康的な都市空間の創出
 - 商業系や医療系など施設集約による利便性の向上

- 時代にあった地域づくり**
- ・歩いて楽しいまちづくり／自転車を活かしたまちづくり
 - ・移動商店街／買い物支援「公園マルシェ」
 - ・地域寺子屋／有償ボランティアなど

第1回「首都圏部会」での意見紹介

地の利を活かした戦略づくりを…

- 袋井の地勢は素晴らしい恵み。
この「恵まれた環境」や「安心・安全」をもっとアピールする戦略づくりが必要ではないか。
- 住むと良さがわかる。それをどのように伝えるかが重要。企業がコアになるのではないか。
- 袋井の「豊富な水」をどう使うかがポイント。
温暖な土地をアピールしながら人を呼んでいくことを考えるべき。
- 健康的で、ゆとりのある生活ができることをアピールポイントにしたらいいのではないか。

新たな「ひと」の流れや「雇用」の創出は…

- 優良な中小企業をターゲットに絞った誘致戦略に注力すべきでは…
ベンチャーや小さな企業でも起業や立地が沸き立つ地域は、地域の魅力がさらに飛躍する。
- 袋井市への企業誘致を考える際、立地企業が求める人材（質量）確保できるのかが企業側としては重要。
近年、企業誘致致戦が各地で過熱しているが、この点を軽視した取組が散見される。「仕事」を持ってきて、「人」がいなければ成立しない。
- 中小企業の誘致。優良な企業は来ないことを前提にした戦略づくりの方が、袋井にとって良い戦略になるのではないか。
- 中小企業の視点からは、静岡理工科大学との連携ができることは魅力的である。
地域に根付いた大学の存在は、中小企業の味方。

このまちに住み、働く「ひと」の幸せを考えることから…

- 人口の減少に歯止めをかけることは、袋井市だけでなく、広域的な圏域でも捉えるべきでは…
- ミニ・コンパクトシティを推進すべき。
商業・医療・エンターテイメントなどを「小さな拠点」として整備、誘導していくことが必要で、アートや祭りなどのソフト産業が重要な役割を果たすだろう。
- 袋井市民の祭りに対する情熱とつながり感には感心する。他地区とは違った良き伝統では…

●これからの時代のキーワードは「食」
「農業」をしっかりとやっている市であることをPRすることが強みとなる。

●海外戦略では、「海外での評価」を国内に逆輸入し、国内市場の喚起に繋げる視点も大事。

●健康と農業、さらにICTが絡むと魅力が増長する。
また、農業を絡めた分野であれば、新たな企業参入も期待できる。

●就農ができるライフスタイル（働き方）の提案も、都会で働く者には魅力的である。

●いきなり「定住」を目指すではなく、都会と地方をを一定期間行き交う2重生活から推奨すべきでは…

戦略づくりは「狙いのわかりやすさ」が大事

- 例えば…「浜松のベッタウンにならない戦略」
独自の雇用と産業活動ができるまちを目指すとか…
- 「企業を外に出さない戦略」とか…
これによりターゲットが絞り込まれ、戦力を集中投下することが可能となる。
- 「子育てするなら袋井市」
都会のシングルマザーに来てくださいなど、子育て環境の良さを強烈にアピールするインパクトが大事
- 戦略づくりは「選択と集中」、さらには「失敗」を次の作戦に活かしていくことが肝要。
- プロジェクトの叩き台は、供給側の施策が羅列されており、これを否定する者はいないだろう。
地方創生の戦略づくりでは、プレイヤーを選定したり、「もっと尖った（特化した）戦略」を目指すべき。

●インバウンド「爆買い」騒動。
会社は売上に貢献いただき嬉しい悲鳴であるが、現場で働く従業員の「やりがい」とは無縁。
働く「喜び」や「幸せ」を考えることを改めて大切に感じた出来事。

●袋井はスポーツ少年団の活動が盛んな地区と認識。

●人のつながり（コミュニケーション）が強い地域は、都会にはない魅力だと思う。